

令和元年度事務事業評価シート(平成30年度実績)

◎基本情報

事務事業名		なるとビジネスプランコンテスト開催事業		担当部署	企画総務部 戦略企画課	
総合計画体系				根拠法令 計画など	鳴門市総合戦略	
基本政策(大項目)	1	うきうき活力と魅力あふれるまちづくり		事業期間	開始	平成 27 年度
政策(中項目)	1	豊かで活力あふれるまち なると			終期	未定
(小項目)		産業				
施策	1	産業の振興と経営基盤の充実強化				
基本事業	1	地場産業の育成・振興				

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 鳴門市において新事業のアイデアを持つ者						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	鳴門市において、地域活性化につながる新事業の創出を支援するため、ビジネスプランコンテストを開催する。						
事業計画	30年度に何を計画していたか	なるとビジネスプランコンテストを開催する。応募希望者を集めて講演会を開催し、その後プランを練り上げる講座を開催。事業計画を応募してもらい、書類選考で最終プレゼンに残る者を決定。プレゼン講座開催後、最終選考会にてグランプリ等を決める。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	単位
		プラン応募者数	15	15	18	20	20	件

◎実施結果(DO)

事業実施内容	30年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	22件のプランの応募があり、プラン作成講座書類審査の結果、6件を最終選考の対象とした。またプレゼンテーション講座の開催やプランのブラッシュアップを経て、最終選考会を、キョーエイ4階で実施。公開プレゼンテーションを行った。グランプリ1件、準グランプリを1件を選出した。					
事業実施手法	<input type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他						
指標名		29年度実績	30年度実績	元年度目標	2年度目標	3年度目標	単位
活動指標	1						
	2						
成果指標	プラン応募者数	20	22	-	-	-	件
	目標達成率(実績/目標)		146.7	-	-	-	%
今年度の進捗状況	計画どおり	事業全体の進捗状況			計画どおり		

(千円)

財源内訳	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
	平成30年度	当初予算額	0	0	0	0	1,050	1,050
		補正予算額	0	0	0	0	0	0
		繰越予算額	0	0	0	0	0	0
		全体予算額	0	0	0	0	1,050	1,050
		決算額	0	0	0	0	869	869
		繰越額	0	0	0	0	0	0
		人件費	正規職員(7,321千円/人)	臨時職員(2,125千円/人)		総人件費		総事業費
		1.0	0.0		7,321		8,190	

事業費推移	年度	29年度決算	30年度決算	元年度	2年度	3年度
	事業費	846	869	1,055	1,055	1,055
	うち一般財源	846	869	1,055	1,055	1,055
	人件費	7,324	7,321	7,321	7,321	7,321
	総事業費	8,170	8,190	8,376	8,376	8,376

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	B:概ね有効性があった		事業手法の見直しによる成果向上の余地があると考える。
	効率性	B:概ね効率的だった		事務の効率化という点において向上の余地があったと考える。
②成果に対する評価	指標名	プラン応募者数		プランの応募数については目標数を達成することができたことからA評価とした。
	目標	15	件	
	実績	22	件	
	評価	A:目標を達成できた		
③総合的な評価		B		応募者による創業には至らなかったが、ビジネスチャンスの拡大や人脈づくりの支援に寄与することができたことからB評価とする。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	<p>H30年度はより多くの方に応募してもらうため、申請書等を工夫し応募しやすくしたことにより、目標以上のプランの応募があった。 しかし、本事業を地域の活性化に結びつけていくためには、提案事業を実現させていくことが必要であり、そのためには受賞者等の創業に向けてのフォロー体制の構築を図っていく必要がある。 また、広報なると等の活用により、コンテスト自体を盛り上げていくための方法についても検討していく必要がある。</p>				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	3
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	R1年度	前年度の取り組みを継続していく。 5年目の総決算として、収益性や地域の課題解決、アイデアに特化したような幅広いプランを部門を分けての募集を検討。また、コンテスト全体を盛り上げていくため広報等を活用しながら、これまでの受賞者の紹介など関係機関と連携し進めていく。			
	R2年度	令和元年度の実施状況を見ながら、令和2年度の内容を検討する。			